

令和7年12月16日開催

令和7年度 福島町議会定例会12月第2回会議 一般質問答弁書

- 1番 藤山議員 ○町の宝である子供の未来投資を
- 7番 熊野議員 ○当町における介護の現状と今後の施策について
- 5番 平沼議員 ○一年を振り返り総括と展望について

福島町

【一般質問答弁書】

質問者	1番 藤山 大 議員
質問事項	町の宝である子供の未来投資を

【教育長答弁要旨】

藤山議員のご質問にお答えいたします。

1点目の暑さ対策について各施設の対応ですが、北海道スポーツ協会から各スポーツ団体に対して、活動中の熱中症予防についての周知はあるようですが、施設についての改善要請は受けておりません。中学校の部活動と同じく熱中症警戒アラートが基準を超える場合は活動をしないなど、活動マニュアルに沿った対応を行っていただいております。

また、総合体育館は、避難所としても大切な施設であることから、新年度に向けて遊戯室などにエアコン設置の予算要望を行ってまいりたいと考えています。

2点目の野球場の整備についてですが、当町の野球場においても夜間照明施設を有するなど、競技を行う上で支障がない環境であると認識しております。直射日光について、敷地内の樹木で日陰になることや、隣接の総合体育館や福祉センターでクーリングダウンを行うことができるよう配慮してまいります。

また、プレハブ等ですが、現地バックネット裏等は歩道が近く、敷地が狭隘なため設置は難しいと考えております。大会等の際は、学校テントなどを活用し大会運営をしていただくなど支援してまいりたいと考えています。

3点目の参加経費の補助条件緩和についてですが、宿泊や移動など大きな経費が伴う全道大会や全国大会のみの補助条件を、地区大会まで緩和してはどうかということかと思いますが、地区大会出場の経費は受益者負担が原則であり、生活圏となっている渡島管内での大会までを補助することは今のところ考えておりません。

なお、保護者負担の軽減策として、昨年度からそれまでの運営費補助金を3倍に拡大し、少年団活動を支援しているところです。

4点目の当町でのスポーツ大会の開催についてですが、近年の実績で最大のものとしては、全国中学校相撲選手権大会を開催しております。また、四町持ち回りの野球、パークゴルフ大会や、中学校バスケットボールの各種大会などが開催されております。

今年度、空手の渡島・檜山管内規模大会が、団体の要請により福島町で開催されましたが、施設の無償貸館など、できうる限り協力させていただいたところです。他の団体からの要請に対しましても、意向などを把握しながら、最大限支援してまいりたいと考えております。

【一般質問答弁書】

質問者	7番 熊野 茂夫 議員
質問事項	当町における介護の現状と今後の施策について

【町長答弁要旨】

熊野議員のご質問にお答えいたします。

1点目の介護施設の施設利用状況についてですが、12月1日現在の特別養護老人ホーム陽光園は、定員50名に対し44名（福島町入所者40名、他町入所者4名）の入所となっております。また、グループホーム陽光園は、定員9名に対し8名入所しており、すべて町内の方となっております。

高齢者福祉施設のやまゆり荘は、定員20名に対し12名が入居しており、こちらもすべて町内の方となっております。

2点目の訪問介護サービスの介護度別利用状況については、要支援1・2が18名となっており、要介護1～5の方は74名となっております。

なお、要介護1の方が40名と全体の43%を占め、介護度の高い4・5が14名となっております。

3点目の介護員の人材確保並びに育成については、現在、町では人材育成や人員確保対策として、介護関連資格の取得費用や外国人の介護従事者を雇用した場合の助成を行っております。

また、今年度から、東川町で行っている外国人介護福祉人材育成支援協議会に加入し、現在、東川国際文化福祉専門学校介護福祉科に入学している外国人留学生2名に対して、卒業後に介護福祉士として陽光園に勤務する条件で、在学中の学費や生活費などの奨学金を町が交付し、介護人材の確保に努めております。

この度、町内の3介護事業所で構成する福島町福祉施設等連絡協議会からの要望を受け、町では来年度以降、新たな制度を創設し、町内の介護事業所に就労した方への就労奨励金を支給する方向で、令和8年度の予算化に向けた検討を進めております。

4点目の財政支援については、施設介護において、特別養護老人ホーム陽光園に対しては、施設の大規模改修に対する補助金や送迎バスに対して補助金を交付するなど、基礎的な経営基盤の安定に重点を置いた支援を行っております。また、訪問介護においては、社会福祉協議会に対する補助金や訪問活動車購入に係る補助により、社会福祉協議会の経営の安定化に向けた支援を行っており、引き続き、各介護事業所の経営安定に寄与してまいります。

【一般質問答弁書】

質問者	5番 平沼 昌平 議員
質問事項	一年を振り返り総括と展望について

【町長答弁要旨】

平沼議員のご質問にお答えいたします。

今年一年を振り返って見ますと様々な出来事があった一年だったと感じております。

前半は比較的順調に推移いたしましたが、7月12日未明にヒグマによる人身事故が発生し、状況が一変したような気がいたします。

これまで経験したことのない、市街地で町民がヒグマに襲われる事態となり、町民の尊い命が奪われております。改めてお亡くなりになられた方のご冥福を祈り申し上げます。

それを受けて、北海道によるヒグマ警報が発令され、町民が楽しみにしていた「九重部屋の夏合宿」や「やるべ福島イカまつり」などのイベントが中止となり、町内経済にも甚大な影響が生じました。

しかし、ハンターや職員による電気柵の設置など迅速な対応により、町民の安全が保たれ、また、ヒグマ商品券などの発行により町内経済が循環し始めるなど、これら一連の対応がヒグマ対策の先駆的な取り組みと評価されるなど、総合的に誇れる対応であったのではと感じております。

一方、前浜の状況は、養殖昆布やウニの生産量などが約14億円で対前年比1.2倍を記録し、近年では最高の生産量となり漁業者には豊漁の一年となっております。

また、10月29日には、町民の皆様方のご協力をいただき、合併70周年記念式典を無事終えることができ、先人の歩みに感謝するとともに、新たな歩みを町民の皆様方とともに、挑戦できることに感謝をしているところでもあります。

令和7年は大変厳しい年ではありましたが、その厳しさが町民の団結力や新たな挑戦につながったものであり、ピンチがチャンスに変わった一年でもあったと感じております。

新たな年は、60年に一度の丙午であり、丙午は力強く前進する意味合いがあり、それに負けることなく新たな挑戦として、交流人口の増加に向けた取り組みなどにチャレンジしてまいりたいと考えております。

【教育長答弁要旨】

平沼議員のご質問にお答えいたします。

令和7年を総括してというご質問でございますが、京都・清水寺を真似て今年を漢字一字で表しますと、「進」という字が最も当てはまるのではないかと考えております。

懸案だった福島商業高校の入学者は2年連続20名を超え、来年度も現在のところ新潮学舎への入居申し込み者は現在11名となっております、安定的な生徒確保に前進できたのではないかと考えております。

町外からやってくる生徒についても、養殖昆布やスーパーなどでのアルバイト、お祭り・イベント・小学校の行事参加など、地域に欠かせない存在となってきたように感じております。

さらに小・中・高校とそれぞれの発達段階で行っている地域学習も展開されてきたと手応えを感じております。合併70周年記念式典で披露した歌や荒馬踊りなどの郷土芸能、農業・漁業の学習、就業体験など、福島町に根差した教育活動が定着してきているように思います。

一方、ヒグマによる人身事故の際には児童生徒の安全をどう図り、教育活動を守るか、瞬時の対応を迫られました。保護者や各関係機関の多大なご協力により、教育活動を継続できたものと改めて心から感謝申し上げます。

また、少子化や施設の老朽化による教育環境の変化に対する対応を急がなければならないと考えております。今般、小中学校の保護者全世帯に義務教育学校へのアンケート調査を実施いたしました。年明けに議会との意見交換の場を設けさせていただきたいと考えておりますが、令和8年はこの課題について検討を進めていかなければならないものと思料しております。

今年1年、保護者の皆様、地域の皆様、議員各位のご指導ご協力、そ

して職員 노력により、一步前に進むことができたと感じているところ
です。